



## 9ユーロで1ヶ月全国乗り放題 青春18切符のドイツ版は地球を救うか



ドイツで6月から、1ヶ月9ユーロ(1200円)で国内全土で路面電車、バス、鈍行列車が乗り放題のチケットの販売が始まった。3ヶ月間限定で、前代未聞の試みである。これまでも1日45ユーロ(6000円)で鈍行乗り放題のチケットはあったが、今回は9ユーロという破格な値段。しかも1ヶ月有効の定期券である。すでに1ヶ月半が過ぎ、残り半分となった。1ヶ月に3000万枚(ドイツは人口8300万人)売れたという。

そもそもなぜこのチケットが発売されることになったのか。それにはさまざまな理由がある。

まず原油高、すなわちエネルギーコストの上昇が挙げられる。ロシアのウクライナ侵攻の長期化により、ドイツではエネルギーコストの高騰が顕著だ。ガソリンは1リットル2ユーロ(270円)を超え、マイカー通勤者から悲鳴が聞こえる。

また、ドイツは天然ガスの55%をロシアに依存していたが、戦争長期化により今後の供給が危ぶまれており、エネルギー源確保が早急の課題である。

加えて食料品などすべての分野で激しいインフレが起きている。統計によると食料品の値上げ率は10%というが、

実際に生活しているともっと高いように感じる。

私もさっそく6月からチケットを利用している。鈍行を使って1時間の隣のミュージアムに出かけたり、200キロ離れたハンブルクに行ってみたり。何より市内で気軽に路面電車に乗れるのはうれしい。うちから街中心部まで路面電車です5駅だが片道3ユーロ(400円)、往復で6ユーロ(800)かかる。自転車で行こうかどうか迷うところだが、9ユーロチケットがあれば気軽に乗れる。大学図書館もこれまで自転車で通っていたが、今はバスを使っている。

ただ鉄道は平日はよいが、週末はとても混雑する。特に金曜夕方の帰宅時混み具合は尋常ではない。しかも遅れ、欠便、クーラーがきかなくて車両が不足…などトラブルが後を絶たない。

ドイツに25年住んでいるが、ハンブルク駅で初めてホームへ入場制限しているのを見た。その日はハンブルクからハノーファーまで通常2時間半のところ、欠便と待ち合わせ時間の不都合で結局5時間かかった。

ハノーファー駅でも、路面電車に向か

う階段が閉鎖されていた。予想以上の数の人がいっせいに利用したため重さに耐えきれず、安全性に問題が生じたらしい。

もちろんチケットの効用は金銭的なものだけではない。地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>削減も重要な目的だ。ロベルト・ハーベック経済・気候保護大臣に直接話を聞く機会を得たが、大臣は「公共交通機関を使うことに抵抗のある人、またなじみのない人がいるが、この機会にぜひ使ってほしい」と言い、マイカーからの乗り換えを期待している。

今回の試みは、3ヶ月で25億ユーロ(3500億円)の支出となるので、財政確保が課題である。9月からは月額69ユーロ(1万円)、それとも29ユーロ(4000円)、または365日で365ユーロ(5万円)のチケットはどうか…など、さまざまな案が飛び交っている。

気軽に公共交通機関を使えれば、人とのつながりも生まれるし、孤独を防ぎ、豊かな社会への一歩となるだろう。9月から同様なチケットを販売してほしいと多くの人が願っている。

ごみかんドイツ特派員 田口理穂

### AKIRA の 成長記録

先日、明のクラスは金曜日、学校に泊りました。プロジェクトで「自分たちで計画を立てて、実行に移す」というのがあり、その中で学校に泊まるという計画を立てたので、それを実行に移すことにしたというよくわからない理由からです。自由参加なので、女子数人は「いたずらばかりする男子がいるからイヤ」という理由で来ませんでしたが、それ以外25人が参加しました。

映画の夕べということで2本ビデオを用意していましたが、見ることもなく、ふざけたりおしゃべりしたり、真夜中に全員で鬼ごっこをして一晩中起きていたそうです(先



生二人は寝ていたそう)。14歳の青春だなあ。明は「すごく楽しかった!」と、帰ってから50回ほど言いました。

話は変わりますが、ママ友の娘(14歳)に同じ年の彼氏ができました。週末は彼が泊まりに来ているそう。こっそり何かされるよりはましだと「セックスは禁止だけど、うちに泊まっていたいいことにした」とか。親の寝室の隣なので、気配はわかるそう。

この方法がいいのか悪いのか私にはわかりませんが、なんとも苦肉の策。明にはそんな心配はまだまだなさそうだけれど。日本の中学3年生という受験真っ盛りですが、ドイツの中学生は別のことで頭がいっぱいようです。